

保 健 体 育

1 教育課程研究協議会の経過（平成21年度～24年度）

平成21年度から24年度までの手引及び教育課程研究協議会の概要は次のとおりである。

	手 引 の 概 要	説 明 及 び 協 議 の 概 要
平成 21 年度	<ol style="list-style-type: none"> 1 科目構成 2 改訂の基本方針 3 改訂の内容 4 質疑応答 	<ul style="list-style-type: none"> ・教育課程編成上の具体的内容（保健体育、体育、保健） ・健康教育の充実 ・教育課程編成・実施における現状と課題 ・新学習指導要領の理念を踏まえた教育課程の編成・実施
平成 22 年度	<ol style="list-style-type: none"> 1 全般的事項 2 体育 3 保健 	<ul style="list-style-type: none"> ・教育課程編成上の留意点（保健体育、体育、保健） ・教育課程編成・実施における現状と課題 ・新学習指導要領の理念を踏まえた教育課程の編成 ①年間指導計画立案の課題 ②生徒の思考力、判断力、表現力等を育成する指導、言語活動の充実を図る指導の在り方
平成 23 年度	<ol style="list-style-type: none"> 1 教育課程の編成 2 体育の指導計画の作成と内容の取扱い 3 保健の指導計画の作成と内容の取扱い 4 言語活動の充実を図る学習指導の実践例 	<ul style="list-style-type: none"> ・「体育」、「保健」の指導計画の作成及び内容の取扱い ・「体育」における思考力、判断力、表現力等の育成や学習意欲の向上を図るための指導方法の工夫 ・「保健」における言語活動を充実する学習指導
平成 24 年度	<ol style="list-style-type: none"> 1 学習指導の改善・充実 2 評価方法の改善・充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・「体育」、「保健」の学習指導の改善・充実の視点 ・学習指導と評価の考え方 ・思考力、判断力、表現力等の育成や学習意欲の向上を図るための指導と学習評価の工夫・改善

2 指導と評価を円滑に行うための年間指導計画の作成

(1) 体育

体育は、体を動かすことが情緒面や知的な発達を促し、集団的活動や身体表現などを通じてコミュニケーション能力を育成することや、筋道を立てて練習や作戦を考え、改善の方法などを互いに話し合う活動などを通じて論理的思考力を育むことにも資するものである。この資質や能力とは、それぞれの運動が有する特性や魅力に応じて、その楽しさや喜びを深く味わおうとする主体的な態度、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画するなどの意欲や健康・安全への態度、運動を合理的・計画的に実践するための運動の技能や知識、それらを運動実践に活用するなどの思考力、判断力などを指している。これらの資質や能力を育てるためには、運動の楽しさや喜びを深く味わえるよう義務教育段階で培った基礎的な運動の技能や知識を生徒の状況に応じて伸長させるとともに、それらを活用して、自らの運動課題を解決するなどの学習をバランスよく行うことが重要である。

学習評価については、各観点ごとの評価をバランスよく行うことが重要であり、観点別学習状況の評価の実施を一層推進し、きめ細かい学習指導と生徒一人一人の学習の確実な定着を図る必要がある。また、評価を指導の改善に生かすという視点を一層重視し、教師が指導の過程や評価方法を見直して、より効果的な指導が行えるよう指導の在り方

について工夫改善を図っていくことが重要である。

【年間指導計画（入学した次の年次）（例）】

月	単 元	学習活動	評価の観点
4	1 体づくり運動①		
5	3 選択Ⅰ（22時間） (1) 器械運動 (2) 陸上競技 (3) 水泳 (4) 球技 (5) 武道 (6) ダンス	<p>【球技（ゴール型）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、作戦や状況に応じた技能や仲間と連携した動きを高めてゲームが展開できるようにする。ゴール型では、状況に応じたボール操作と空間を埋めるなどの動きによって空間への侵入などから攻防を展開する。 ・球技に主体的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする事、役割を積極的に引き受け自己の責任を果たそうとすること、合意形成に貢献しようとする事などや、健康・安全を確保することができるようにする。 ・技術などの名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、競技会の仕方などを理解し、チームや自己の課題に応じた運動を継続するための取り組み方を工夫できるようにする。 <p>【学習活動（サッカー）】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 状況に応じたボール操作 <ol style="list-style-type: none"> (1) 味方が作り出した空間にパスを送ること。 (2) ゴールに向かってボールをコントロールして運ぶこと。 (3) 守備者のタイミングを外し守備者のいないところをねらってシュートを打つこと。 2 ボールを持たないときの動き <ol style="list-style-type: none"> (1) シュートをしたり、パスを受けたりするために味方が作り出した空間に移動すること。 (2) スクリーンプレイやポストプレイなどの味方が進入する空間を作り出す動きをすること。 (3) 得点を取るためのフォーメーションやセットプレイなどのチームの役割に応じた動きをすること。 	<p>【関心・意欲・態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・球技の学習に主体的に取り組もうとしている。 ・フェアなプレイを大切にしようとしている。 ・役割を積極的に引き受け自己の責任を果たそうとしている。 <p>【思考・判断】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの学習を踏まえて、チームが目指す目標に応じたチームや自己の課題を設定している。 ・課題解決の過程を踏まえて、取り組んできたチームや自己の目標と成果を検証し、課題を見直している。 ・チームの仲間の技術的な課題や有効な練習方法の選択について指摘している。 <p>【運動の技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゴール型では、空間への侵入などから攻防を展開するための状況に応じたボール操作と空間を埋めるなどの動きができる。 <p>【知識・理解】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・技術などの名称や行い方について、学習した具体例を挙げている。 ・球技に関連した体力の高め方について、学習した具体例を挙げている。

生徒に対するアンケートにより、球技以外の領域については、希望の多い上位2領域、球技については屋外で実施する種目に限定して希望の多い上位2種目を開講する。

本手引では、選択Ⅰのうち、球技の年間指導計画等のみ掲載する。

【単元（球技ゴール型サッカー）の指導計画（例）】

時	ねらい・学習活動	評価の観点				評価規準	評価方法
		関	思	技	知		
1							
5	<p>ねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ボール操作や攻撃のための空間づくりを意識しながら、作戦や戦術を工夫したゲームを行う。 ○学習の進め方と注意事項を確認する。 <p>学習の重点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シュートに対する積極的な意識づくり ・自らシュートが打てる空間を作り出すための動き ・話合いに参加する意義 			①	<p>【関心・意欲・態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①練習や試合の進行などで、記録や審判、キャプテンなどの仲間とお互いに合意した役割に、責任をもって取り組もうとしている。 <p>【思考・判断】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①作戦などの話合いの場面で、合意を形成するための適切な関わり方を見付けている。 <p>【運動の技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①ゴールの枠内にシュートをコントロールすることができる。 	観察 学習カード	
6			①		<ul style="list-style-type: none"> ②空いている場所を生かした攻撃ができる。 	観察	
7				①			
8	<p>学習活動Ⅰ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・40m×30m程度での6対6のミニゲーム ・学習カードを活用した分析 ・VTRを活用したゲーム分析 	①			<p>【知識・理解】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①ゴール型サッカーの技術や戦略の名称について学習した具体例を挙げている。 	学習カード	
9				②			
10							

(2) 保健

「保健」の指導を進める過程では、保健の内容を単に知識や記憶としてとどめるのではなく、健康に関する興味・関心や課題解決への意欲を高めるとともに、知識を活用する学習活動を重視して、生徒の思考力・判断力等を育成しなければならない。それによって、生徒が近い将来に健康で安全な社会を担う人材として、健康に関する適切な環境づくりに関わったり、現在及び将来の生活において健康・安全に関する課題の解決に役立てたりすることなどにつながっていく。したがって、単元の目標は三つに分けて示し、単元の評価も3観点で行うことが重要である。ただし、1時間で行う評価は、2観点までに留めておき、評価のための授業にならないように留意することも大切である。

学習評価については、単に成績を付けるだけのものではなく、学習指導要領に示す目標に照らして一人一人の生徒の実現状況を捉え、次の学習に生かしたり、学習指導の改善に役立てたり、保護者に対して生徒の学習状況の共通理解を図ったりすることに役立てることができる。すなわち、「関心・意欲・態度」、「思考・判断」、「知識・理解」の三つの資質や能力を踏まえて目標を設定し指導するとともに、それぞれの目標に準拠し、3つの観点で評価を実施することにより、指導と評価を一体的に行い、生徒の資質や能力を育成することができる。

【年間指導計画（入学したその次の年次）（例）】

月	単 元	学習活動	評価の観点
10	2 社会生活と健康		
<p>社会生活における健康の保持増進には、環境や食品、労働などが深くかかわっていることから、環境と健康、環境と食品の保健、労働と健康にかかわる活動や対策が重要であることについて理解できるようにする。</p>			
11	(2) 環境と食品の保健 (6時間) ア 環境保健にかかわる活動	<p>環境衛生活動は、学校や地域の環境を健康に適したものとすよう基準が設定され、それに基づき行われていること。また、食品衛生活動は、食品の安全性を確保するよう基準が設定され、それに基づき行われていることを理解させる。</p> <p>・上下水道の整備、ごみやし尿などの廃棄物の処理などの環境衛生活動は、自然や学校、地域などの社会生活における環境と健康を守るために行われていることを理解できるようにする。また、その現状、問題点、対策などを総合的に把握し改善していかなければならないことについて、安全で良質な水の確保や廃棄物の処理と関連付けて理解できるようにする。</p>	<p>【関心・意欲・態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> 環境保健に関わる活動、食品保健に関わる活動について、資料を探したり、見たり、読んだりするなどの学習活動に意欲的に取り組もうとしている。 健康の保持増進のための環境と食品の保健について、課題の解決に向けての話し合いや意見交換などの学習活動に意欲的に取り組もうとしている。 <p>【思考・判断】</p> <ul style="list-style-type: none"> 環境保健に関わる活動、食品保健に関わる活動について、資料等で調べたことを基に、課題を見付けたり、解決の方法を整理したりするなどして、それらを説明している。 健康の保持増進のための環境と食品の保健について、学習したことを、個人及び社会生活や事例等と比較したり、分析したり、関連付けたりするなどしている。また、筋道を立ててそれらを説明している。
12	イ 食品保健にかかわる活動 ウ 健康の保持増進のための環境と食品の保健	<p>・食品の安全性の確保は、食品衛生法などに基づいて行われており、食品の製造・加工・保存・流通などの各段階での適切な管理が重要であることを理解できるようにする。その際、衛生管理の一つの方法である危害分析に基づく重要管理点（HACCP）方式の導入などについても触れるようにする。</p> <p>・環境と食品の保健に関わる健康被害の防止と健康の保持増進には、適切に情報を公開、活用するなど行政・生産者・製造者・消費者などが互いに関係を保ちながら、それぞれの役割を果たすことが重要であることについて理解できるようにする。</p>	<p>【知識・理解】</p> <ul style="list-style-type: none"> 環境衛生活動は、学校や地域の環境を健康に適したものとすよう基準が設定され、それに基づき行われていること、食品衛生活動は、食品の安全性を確保するよう基準が設定され、それに基づき行われていることについて、理解したことを発言したり、記述したりしている。

【単元の指導計画（例）】

時	ねらい・学習活動	評価の観点			評価規準	評価方法
		関	思	知		
3	<p>ねらい ○食品の安全性の確保について、食品の製造・加工・保存・流通などの各段階での適切な管理が重要であることを理解できるようにする。</p> <p>1 食品の安全性が揺るがされた事件・事故を調べ、課題を分類し、その対策や改善方法について話し合う。 2 食品衛生法に基づく食品の安全性の確保や食品の製造・加工・保存・流通など適切な管理について調べる。 3 HACCP（ハサップ）の役割と食品の製造から消費までの衛生管理についてまとめる。</p>		○		<p>食品衛生活動について、資料等で調べたことを基に、課題を見付け、解決の方法を整理するなどして、それらを説明している。</p> <p>食品の安全性の確保は、食品衛生法などに基づいて行われており、食品の製造、加工、保存、流通などの適切な管理が重要であることについて、理解したことを発言したり、記述したりしている。</p>	<p>観察 学習プリント</p> <p>学習プリント</p>

3 観点別学習状況の観点ごとの総括

観点別評価の総括は、生徒一人一人の学習課題を明確にすると同時に、指導の成果として捉えることが大切である。評価においては、学習活動に即した評価規準に照らして、「十分満足できる」状況（A）、「おおむね満足できる」状況（B）、「努力を要する」状況（C）の実現状況を判断して記録するとともに、（C）と評価した生徒には、その結果を具体的な言葉かけにより即座に返したり、指導の手立てを修正したりするなど、観点別評価の結果を指導に生かしていくことが重要である。

観点別学習状況の評価に当たっては、評価に対する妥当性、信頼性等を高めるために、保健体育科の教員相互で、評価の観点ごとの総括及び評定への総括の考え方や方法について共通理解を図り、対外的に説明責任を果たすことができるようにすることが大切である。

次に、評価補助簿を活用して観点別評価の総括を行っている事例を示す。

(1) 体育

① 単元における評価の総括の例〔単元名「陸上競技」（全22時間）〕

時数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	評価方法が示されている
学習の流れ	リレー 走り 砲丸投げ	共通メニュー（準備運動、補強運動、今日の学習内容の確認、体づくり運動の活用） オリエンテーション 前学年までの復習 新しい内容の学習 各時間とも前半は教師の一斉指導 後半はグループ練習中心 計測 計測						共通メニュー（準備運動、補強運動、今日の学習内容の確認、体づくり運動の活用） オリエンテーション ハード 三歳走り 長距離走り 種目別練習 記録会準備 係分組 ルールの確認 測定 学習メモの工夫						共通メニュー（準備運動、補強運動、今日の学習内容の確認、体づくり運動の活用） 種目別練習 各自が選択した 種目（2種目） 練習計画立案・練習 各自で立案した課題解決的な学習の実施 ○各自の学習計画の立案 ・課題を見直す ○グループ学習 （種別と主体的に定める学習） ○課題や記録の計測 ・課題解決に向け練習方法を見付ける ・各項目に必要な体力を高める補助運動等を行う ○競技会の運営準備 ※同種目を選択した者同士で、2～3名程度のグループ単位で実施						種目別練習 記録会準備 係分組 ルールの確認 記録測定 審判法 まとめ			
評価機会と方法			③								②							①					観察 学習カード
生徒1						①②					①			④					②		①		観察 学習カード
生徒2			C								B								B		A		B A A A B B

※①～④は各学校で作成する「学習活動に即した評価規準」の項目であり、それぞれの時間に該当する項目と照らして評価する

② 学期末における評価の総括の例（生徒A）

	関心・意欲・態度	思考・判断	運動の技能	知識・理解
体づくり運動	B	C		C
体育理論	A	B		C
陸上競技	B	A	A	B
前期末の評価	B	B	A	C

※ 指導内容に「技能」が示されていない「体づくり運動」と、知識に関する領域の「体育理論」は、「運動の技能」を除く3観点で評価している。

③ 学年末における評価の総括の例（生徒A）

	関心・意欲・態度	思考・判断	運動の技能	知識・理解
体づくり運動	B	B		C
陸上競技	B	A	A	B
球技	A	B	A	C
体育理論	A	A		C
スキー	A	A	A	B
学年末の評価	A	A	A	C

※ 「体づくり運動」と「体育理論」については、後期に学習した内容の評価を加えていることから、前期の評価と異なる部分がある。

④ 総括についての考え方

ア ①の生徒Aの評価記録の「関心・意欲・態度」では、C・B・Bなので、Bと総括し、「運動の技能」は、B・B・A・Aと同数であるがAと総括した。これは、保健体育科の教員相互で十分検討し、単元の後半にも観察による評価が可能な場面があることから、そこでの評価情報も補助的に活用した上で決定したものである。なお、A・B・Cの記号が同数の場合や、3つの記号が混在する場合の総括の仕方は、あらかじめ保健体育科の教員相互で決めておく必要がある。

イ ②の「関心・意欲・態度」では、B・A・Bなので、B、「知識・理解」はC・C・Bなので、Cと総括し、「思考・判断」はC・B・Aと同数なので中間のBとして総括した。

ウ ③においては、領域ごとに総括した観点ごとの評価結果を基に評価の総括を行い、各観点の評価結果がA・A・A・Cなので4と総括した。総括の方法はアと同様である。

エ 本事例のように、評価結果のA・B・Cの数により総括する方法のほか、A=3、B=2、C=1のように数値によって表して合計したり平均したりすることで総括する方法もある。

(2) 保健

① 単元における評価の総括の例〔単元名「交通安全」(全5時間)〕

観点	場面	交通安全で必要な資質と責任			安全な社会づくり		単元の総括
		交通事故の現状 1時間目	2時間目	3時間目	4時間目	5時間目	
関心・意欲・態度		①	①	①		②	
思考・判断				①	②	②	
知識・理解		①	②		③		
生徒A	関心・意欲・態度	B	B	A		A	A
	思考・判断			A	C	B	B
	知識・理解	A	B		B		B
生徒	関心・意欲・態度	C	C	C		B	C
	思考・判断			B	B	C	B

※ ①～③は各学校で作成する「学習活動に即した評価規準」の項目であり、それぞれの時間に該当する項目と照らして評価することを示している。

② 総括についての考え方

ア 「知識・理解」、「思考・判断」の評価は学習プリントと定期考査の結果も参考にした。

イ 単元の総括は、Aが半数以上の場合はA、Cが半数を超える場合はC、それ以外はBとする考え方に立って総括を行った。また、AとCが同一観点に混在する場合は、Bに置き換えて集約した。

ウ 評価結果の総括の方法については、(1)の④と同様である。学年末における評価の総括の方法については、(1)の科目「体育」の事例で示したように、学年末に観点ごとに総括した評価の結果を基にする場合のほか、学期末に総括した評価の結果を基にする場合が考えられる。

Topic

運動部活動の適切な指導と運営

運動部活動は、学校教育の一環として、スポーツに興味と関心をもつ同好の生徒の自主的、自発的な参加により、顧問の教員をはじめとした関係者の取組や指導の下に運動やスポーツを行うものであり、各学校で多様な活動が行われ、我が国独自の発展を遂げてきました。また、多くの生徒の心身にわたる成長と豊かな学校生活の実現に大きな役割を果たし、様々な成果をもたらしています。しかし、このような運動部活動の場において、毎年、指導者による体罰の事案が報告されているほか、依然として、一部には勝利至上主義が見られ、休養日を設けずに部活動を実施している状況も見られるとの指摘もあります。

部活動の意義をもう一度確認するとともに、体罰を厳しい指導として正当化することは誤りであるという認識を持ち、部活動の指導に当たる教員等は、生徒の心身の健全な育成に資するよう生徒の健康状態の十分な把握や、望ましい人間関係の構築に留意し適切に部活動指導をすることが必要です。
<平成25年3月13日付け25文科初第1269号文部科学省初等中等教育局長、スポーツ・青少年局長通知>

生徒の自主的、自発的な参加により行われる部活動については、スポーツや文化及び科学等に親しませ、学習意欲の向上や責任感、連帯感の涵養等に資するものであり、学校教育の一環として、教育課程との関連が図られるよう留意すること。(以下省略)
<高等学校学習指導要領 第1章 総則 第5款 教育課程の編成・実施等に当たって配慮すべき事項>

学習指導要領において、部活動が「学校教育の一環として、教育課程との関連が図られるように留意すること」と規定されたことは、運動部の活動に関しては、主として保健体育科の目標である「心と体を一体としてとらえ、健康・安全や運動についての理解と運動の合理的、計画的な実践を通して、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てるとともに、健康の保持増進のための実践力の育成と体力の向上を図り、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を育てる」ことを踏まえた活動を行うことなどを示しています。

継続的にスポーツを行う上で、勝利を目指すこと、今以上の技能の水準や記録に挑戦することは自然なことであり、それを学校が支援すること自体が問題とされるものではありませんが、大会等で勝つことのみを重視し過重な練習を強いることなどがないようにすること、健全な心と身体を培い、豊かな人間性を育むためのバランスのとれた運営と指導を行うことが求められます。

<学校教育活動の一環として行われる運動部活動の意義や効果>

- スポーツの楽しさや喜びを味わい、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てる。
- 体力の向上や健康の増進につながる。
- 保健体育科等の教育課程内の指導で身に付けたものを発展、充実させたり、活用させたりするとともに、運動部活動の成果を学校の教育活動全体で生かす機会となる。
- 自主性、協調性、責任感、連帯感などを育成する。
- 自己の力の確認、努力による達成感、充実感をもたらす。
- 互いに競い、励まし、協力する中で友情を深めるとともに、学級や学年を離れて仲間や指導者と密接に触れ合うことにより学級内とは異なる人間関係の形成につながる。

<各教科等で学習した内容を運動部活動で活用する取組の例>

- 保健体育科の体育理論で学習した「運動やスポーツが心身の発達に与える効果と安全」、「運動やスポーツの効果的な学習の仕方」を活用した練習計画の立案
- 数学科で学習したヒストグラムを活用した試合での作戦や練習方法の考案 など

生きる力の育成 豊かな学校生活の実現